

		音楽研究会		歌唱部会記録	
日時	平成28年10月3日				
部会名	歌唱部会			主任	(小)
参加数	25名	司会	原山 史子(三ツ境)	記録	柴田香織(港南台第一小)
研究内容	<p>研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方</p> <p>歌唱部会テーマ：子どもが歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動</p> <p>研究仮説：魅力的な教材との出会いを大切に、互いに表現のよさを聴き合い、学び合うことで、どの子どもも歌う喜びを感じながら、表現力を高めることができる。</p>				
	<p>1 研究授業構想に沿った実践提案</p> <p><b>第5学年 学習の主題「全体の響きを聴き、声を合わせて歌おう」</b></p> <p><b>中心教材「南風にのって」</b></p> <p>① 提案者 新谷 亜希子(子安小)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に歌う子ども達、クラスで2つのグループに分けて行った。</li> <li>・本時(3/3)ではグループの中でソプラノ・アルトに分かれて歌ったが、アルトは「どこまでも」の始めの音がとれなかった。オルガンで音を確認したり、感想を聞いた後にその音で「どーー」とのぼしたりして、2つの音の重なりを感じた。</li> <li>・最終的に1人の児童がソプラノからアルトに移動して合唱をつくりあげた。</li> <li>・二部合唱ができた上で、より豊かに素敵にしていきたかったが、「できる、できない」「つられないように」に留まってしまった。しかし少人数でやることで、1人ひとりが考えて活動することができたことは成果だった。</li> <li>・子ども達が3度のハーモニーを目指せるように“これがきれいなハーモニーだね”というものを先生も交えて共通課題としてみんなで理解し合えるといいと思った。</li> <li>・きれいに重なったかどうかを歌いながら感じられる子は少ない。半分ずつ歌って聴き合うなど工夫もできる。</li> <li>・「どこまでも」の「ど(シの音)」を導き出すために「ソファソラシー」とその前の伴奏を聴かせて、シの音につなげられるように支援すると思った。</li> <li>・グループ学習のよさもあるが、子ども達は、グループに分かれてから自信を持って歌えていないことに気付いた。</li> </ul> <p>② 提案者 千葉瑞子(下永谷小)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達は、歌うことは好きだが、旋律が難しいと苦手を感じる傾向がある。学習カードは本校の子ども達に合ったものに作り替えた。</li> <li>・グループ学習は難しいため、1人ひとり付箋に思いを書いて、拡大楽譜に貼らせた。</li> <li>・自分の思いを自由に書けたりほかのクラスの思いも知れたりすることはよかったが、短時間でたくさんの意見をまとめられないという難しさもあった。その思いからパワーアップポイントを3つに絞ったが、一度に3つ意識するのは難しいと感じた。</li> <li>・歌ってみると「どこまでも」の3度の重なりがすっきりしないと感じる児童が多かった。</li> <li>・付箋が分かりやすくて良かった。</li> <li>・はじめに聴いた時の感想を書かせて、教師がまとめて次の時間に提示する方法をとったこともある。</li> </ul>				

## 2 研究授業の指導案検討

提案者 波切良太（川島小）

- ・学習カードは今までも同じような形式のものをつかっているの、このまま使用したい。
- ・伴奏のテンポをもう少し遅くして、重なりを確かめながらできると、より技能の向上につなげられたかもしれない。始めの音をオルガンで出しているのはよかった。
- ・今（授業者の学校の）子ども達は3度の音の重なりをたくさん味わわせているから、まず曲の中で3度の重なりを見つけさせて、その後半部分から特にきれいに重ねたい部分に名前だけ書いた付箋を貼っていくという方法ならとれそうだと思う。